今月の営農ポイント

園芸ポイント

ネギハモグリバエB系統に注意！防除で被害を抑えましょう

男鹿地区営農センター センター長補佐　長谷川 弘幸

近年、日本の西から北上してきて、秋田県内でも数年前から発生が確認されている「ネギハモグリバエB系統」は、従来の「A系統」が1枚の葉のなかにハエの幼虫（ウジ）1匹程度いるのに対し、4匹以上の幼虫が入っており、そのような場合は「B系統」を疑ったほうがよいと思われます。また、産卵痕も1か所に産み付ける数が多いことや、20～25℃の気温を好み、高温になると活動が鈍る「A系統」に比べて、高温下でも繁殖を続けるのが特徴です。

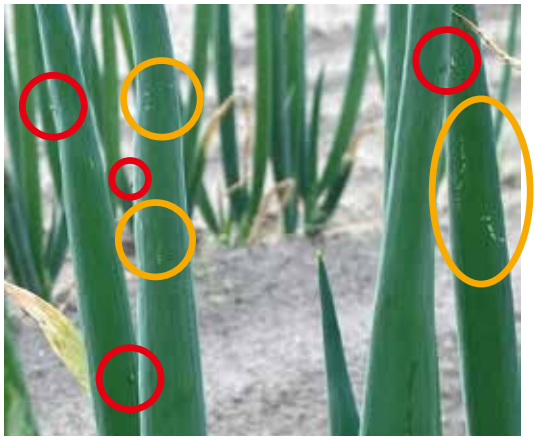
最近では、家庭菜園でも「病気でネギの葉が白く枯れてきて、農薬を散布しても治らない」と相談を受け、畑に行くと「ネギハモグリバエB系統」と思われる枯れ症状が多くなってきました。

一度発生すると防除に困難を極める場合もありますので、予防を心がけましょう。

ネギハモグリバエB系統による被害例

●ひどい食害痕

●産卵痕　○…親　○…産卵痕



ハモグリバエに有効的な農薬

農薬名	希釈倍率	散布量・使用量	使用時期	使用方法	使用回数
パダンSG水溶剤	1,500倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内
ベネビアOD	2,000倍		収穫前日まで		3回以内
ヨーバルフロアブル	2,500～5,000倍		収穫3日前まで		3回以内
アグリメック	500～1,000倍		収穫3日前まで		3回以内
グレーシア乳剤	2,000～3,000倍		収穫7日前まで		2回以内
カスケード乳剤	4,000倍		収穫14日前まで		3回以内
ミネクトデュオ粒剤	－	6kg/10a	収穫3日前まで	株元散布	3回以内

※上記の農薬の使用方法（空散対応）や、他にもネギハモグリバエに登録のある農薬もありますので、各営農センターにお問い合わせください。

※発生が見られた場合、ハモグリバエの生態として、「蛹」の期間は土の中や土の表面などにいて農薬を散布しても効かないため、1週間おきに薬剤をローテーションして散布してください。

交通事故にあったら　まずは怪我人の救護と安全確保
JA共済事故受付センター（24時間・365日対応）0120-258-931と警察にもご連絡ください